

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一14:20~25

「神が確かにあなたがたの中におられる」

[20]「兄弟たち。物の考え方において子どもであってはなりません。悪事においては幼子でありなさい。しかし考え方においてはおとなになりなさい」

ここは異言をひけらかし、預言を軽んじるコリント人たちに対するパウロの叱責と言える。悪事においては幼子であることは必要。しかし物の考え方においては、物事の価値を正しく判断し分別し行動することのできるおとなでなければならない。このことはコリント人だけでなくすべての信仰者に当てはまる。→マタイ10:16

[21]「律法にこう書いてあります。『わたしは、異なった舌により、異国の人のくちびるによってこの民に語るが、彼らはなおわたしの言うことを聞かない』と主は言われる」パウロはここで旧約のイザヤ書28:11~12を引用する。それは次のような意味となる。「まことの神に立ち返れとの明確な預言に聞き従わないイスラエルの人々に対して、彼らはその不従順のゆえに神のさばきを招き、やがてアッシリヤ人が攻め寄せてきて、彼らを征服し、その町を占領することになる。そうすれば彼らは自分たちの理解できない外国のことばに耳を傾けなければならなくなる。しかし、その恐ろしい経験も不信仰で不従順な民を神に向けさせることはできないだろう。彼らはなお聞き入れないのだ。」

パウロはこのようにイザヤ書を引用することによって、イザヤのはっきりわかる預言とアッシリヤ人の意味の分からない外国語とを当時のコリントにおける預言と異言とに重ね合わせたのである。

[22]「それで、異言は信者のためのしるしではなく、不信者のためのしるしです。けれども、預言は不信者でなく、信者のためのしるしです」

不信者が異言を聞いても、それで信仰を持つこともなく、神をあがめることもしない。不信仰と不従順の結末が異国のことばであったと同様に異言も信者ではなく不信者のためのしるしなのである。しかし、みことばをもって慰め、励まし、徳を立てる預言は信仰者に対して必要なものであり、それは信者のためのしるしとなる。

[23]「ですから、もし教会全体が一か所に集まって、みなが異言を話すとしたら、初心の者とか信者でない者とかが入って来たとき、彼らはあなたがたを、気が狂っていると言わないでしょうか」

これは公の礼拝の場でみなが異言を話している姿である。このような光景に接するならば初心者や未信者は、イエス・キリストを救い主として告白し、クリスチャンとして生きようとの決心には決して導かれず、かえって彼らは気が狂っていると思い、二度と教会には足を運ばなくなるだろう。

[24-25]「しかし、もしみなが預言をするなら、信者でない者や初心の者が入って来たとき、その人はみなの方によって罪を示されます。みなにさばかれ、心の秘密があらわにされます。そうして、神が確かにあなたがたの中におられると言って、ひれ伏して神を拝むでしょう」

預言が未信者、初心者にもたらすものは、①その人に罪を示す。→ヘブル4:12

②さばかれる。…平気で罪を重ねていた者が、みことばと聖霊によってはっきりとその罪を示され、自分が神の怒りのもとにあるということを自覚する。③心の秘密があらわにされる。自分の心の醜さがはっきりと示される。→マルコ7:21~23

④神が確かにあなたがたの中におられると告白し、神を礼拝するようになる。…人が本当に神の臨在に触れる時、恐れ、ひれ伏し、礼拝する者と変えられる。→創世記17:3、出34:8、ヨシュア5:14、ダニエル2:46~47、マタイ2:11、黙示録15:4
パウロはIコリント14:1で「御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい」と勧めた。コリント人たちは、そして私たちも、子どものように目先の変わったものを欲しがるのではなく、真に大事なもの、神のみことばによって徳を高められ、立て上げられていくことを求めなければならない。

そのようにしていく時、神が確かにあなたがたの中におられると人々は告白し、礼拝するようになるであろう。